

令和3年度 学校経営計画及び学校評価 (2021年度)

1 めざす学校像

「いきいきと やさしく ゆたかに たくましく つながる」	
～全てがつながる中で、学びの高みへ～	
・いきいきと	学ぶ力（基礎・基本と問題解決学習）の充実
・やさしく	一人一人が大切にされる教育の推進
・ゆたかに	学習環境（生活規律・生活習慣）の育成と定着
・たくましく	集団づくり・体力づくりの推進
・つながる	学校間・関係諸機関・家庭・地域の連携推進

2 中期的目標

<p>1 チームで歩む学校</p> <p>ア. 「TEAM 別府」と呼ぶのにふさわしい、積極的・意欲的で一体感のある学校集団を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年団や校務分掌から学校経営計画の実現に向けた改善策や新たな取り組みの提案を行い、経営計画策定と学校評価への職員の参画を更に推進し、主体的に働くことができる職場づくりを通じてチーム力を高める。 ・ICT活用により「すこやか委員会」の効率化と判断力の向上を図り、教職員がスムーズに情報を共有し専門性を生かして連携することにより早期に適切な対応を実行できる学校をつくる。 <p>イ. 全学年で教科を横断した人の配置とカリキュラムマネジメントを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育と道徳教育を関連させるなどした効果的なカリキュラムの実施にむけ、教科担任制等を実施する。 ・インクルーシブ教育環境の構築を行う。 ◆自己診断教職員アンケート「学校運営」項目の肯定的回答目標を88%にする。(令和3年度から2年計画)
<p>2 豊かな学びのある学校</p> <p>ア. 「わかる授業」「興味を持てる授業」をめざし、授業改善に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びあい学習を中心に問題解決学習や個別支援を実施し、授業改善に取り組む。(学びあいプロジェクト)(令和3年度 1年目) ・研究授業を定期的実施し、個に応じた授業の在り方を市内外へ広く発信する。(令和3年度からの3年計画 1年目) ◆自己診断児童アンケートにおける「授業、学習」に関する項目の肯定的回答を毎年3ポイント以上引き上げ、令和3年度末88%にする。 <p>イ. 「朝学習」「朝読書」「べふっこタイム」「パワーアップタイム」等により個に応じた補習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆学校教育自己診断における「個に応じた指導」に関する項目の肯定的回答令和3年度末目標を85%とする。 ◆市学力定着度調査における平均正答率を毎年引き上げ、令和3年度に全国平均を越える。
<p>3 つながりをつくる学校</p> <p>ア. PTAや学校協議会を通して、保護者や地域の願いを汲み取った開かれた学校づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断と学校関係者評価をもとに、学校経営計画を改善していく教職員全員によるPDCAサイクルを確立する。 ・学校間だけでなく、小学校PTAと中学校PTAの交流についても、行事の交流にとどまらない連携の在り方を探る。 ・規約の改定を中心にPTAの在り方を見つめ改革を進める。 ◆管理職及びPTA役員で、規約改正について意見の交流を図る。 <p>イ. 中学校区三校及び市内幼稚園との連携を見直しシステム化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタートカリキュラムやICT活用授業及びキャリアパスポートの活用。 児童生徒のすこやかな成長と進路の保障に向けて研究協議する。 ・四中校区の学校行事の共同実施や参加、出前授業、定期的な担当者会議の開催などを行い、児童生徒や教職員が互いに行き来することで、小中のカリキュラムの円滑な接続と相互理解をいっそう深める。 ◆毎学期1回以上は校区の学校へ赴き、授業や行事に関する担当者会議を行う。

学校教育自己診断の結果と分析、学校協議会からの意見

学校教育自己診断の結果と分析 (令和4年1月実施)	学校協議会からの意見
(児童) ① 令和2年度と比べて、相対的に肯定的回答の割合が下がっている。 ② 設問18問中、15問は80～94.5の肯定的回答があり、概ねその割合の児童が満足したり安心したりできていると考えられる。 ③ 「当てはまらない」との強い否定回答の値が増えている設問について	別紙「令和3年度 別府小学校 学校関係者評価のまとめ」を参照

も注目の必要がある。

- ④ 他の設問に比べて下記の3つは以前より相対的に低い肯定的回答率である。そこに課題が残されており、改善の方策が特に求められる。
- (設問3) 授業で自分の考えをまとめたり、発表していますか。
57%の肯定的回答率(令和3年平均)
- (設問16) 家に帰ってから、友だちとよく遊びますか。
69%の肯定的回答率(令和3年平均)
- (設問18) テレビを見たり、ゲームをしたりする時間を決めていますか。65%(令和3年平均)

(保護者)

- ① 令和2年度と比べて、相対的に肯定的回答の割合が下がっている。
- ② 設問18問中、13問は80～94の肯定的回答があり、概ねその割合の保護者が満足したり安心したりできていると考えられる。
- ③ 「当てはまらない」との強い否定回答の値が増えている設問についても注目の必要がある。
- ④ 他の設問に比べて下記の3つは以前より相対的に低い肯定的回答率である。そこに課題が残されており、改善の方策が特に求められる。
- (設問13) 不審者対応など、子どもの安全対策が取られている。
73%の肯定的回答率(令和3年)
- 令和3年度の安全に関する避難訓練 5月12日不審者避難訓練、
6月2日火災避難訓練、1月17日地震避難訓練
- (設問16) 学校は、学校行事を含め保護者が授業を参観する機会をよく設けている。71%の肯定的回答率(令和3年)
- 令和3年度の保護者参観の設定 10月30日運動会、
11月15～17日分散参観日、2月3～4日分散参観日
- (設問18) 子どもが、テレビを見たりゲームをしたりする時間を決めている。62%(令和3年)
- ⑤ 生活習慣を問う設問においては、児童と保護者の認識は概ね一致している。
- 毎朝、朝食を取っている。児童93%、保護者94%
プリントやテストを見せている。児童82.5%、保護者81%
テレビを見たりゲームをしたりする時間を決めている。
児童65%、保護者62%

(教職員)

- ① 令和2年度と比べて、相対的に肯定的回答率が上がっているが、対象人数が少ないために有意差があるとは考えにくい。
- ② 設問23問中、20問は72～100の肯定的回答率があり、概ね教職員が達成できている、満足できていると感じていると考えられる。
- ③ 3問は他項目よりも肯定的回答率が低く、今後に向けて改善の方策が必要と考えられる。
- (設問3) カリキュラムマネジメントに積極的に取り組んでいる。もしくはその準備をした。61%の肯定的回答率
- (設問7) 文書作成において伝えたい情報をわかりやすく短時間で作成できる。55%の肯定的回答率
- (設問20) 教職員がタイムマネジメントを意識して、現在の職務を点検・見直すことで「働き方改革」を意識した業務改善が推進されている。34%の肯定的回答率”

3 今年度の重点目標と具体的な教育活動

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な教育活動	評価指標	自己評価
<p>チームで歩む学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの声でできている別府小学校 ○ 自ら成長しようとする別府小学校 ○ 教職員の「働き方改革」の具現化 Ver. 2 	<ul style="list-style-type: none"> ・ べふっ子人権教育カリキュラムを全学年で開始し、人権教育に根差した風土を児童や保護者と共に創造する。 ・ 生徒指導の基本スキルを身に付けるための教職員研修を重点的に実施する。 ・ ミドルリーダーを中心に、各教職員のニーズにあった自主研修や課題別研修会を設け、「こどものくらしに学びながら自ら成長する集団」をめざす。 ・ 児童会活動等によるこどもの参画を大切にし、いじめの無い学校をめざす。 ・ 学校経営計画を教職員が協働して作り、また、授業の相互参観を計画的に行いこどもに付けたい力を共有することで、チームの質と力を高める。 ・ 行事の見直しを進める。 ・ ICT活用を推進し働きかた改革に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断教職員・児童・保護者アンケートで全体の肯定的割合が向上していること。 ・ 摂津市児童意識調査「学校が楽しい」の『強い肯定』と「肯定」の割合、両方が向上していること。 	<p>○ 12月の児童意識調査「学校が楽しい」の肯定的回答の割合に関しては、強い「あてはまる」の肯定的回答は増えているが、「どちらかといえばあてはまる」の肯定的回答は減っている。</p> <p>強い肯定的回答 R2 56% →R3 56.3% ◎</p> <p>肯定的回答 R2 R2 29.6%→R3 25.3% ▲</p> <p>○自己診断アンケートについては、教職員「人権教育をあらゆる教育活動の基盤に位置付けることができる」の肯定的回答が R2 100%→R3 100%とあり、人権教育が全体的なものとなっていると考える。</p> <p>○教職員「自ら学び成長する教職員集団となっている」の肯定的回答が95%。ミドルリーダーを中心とした JT（人権教育実践タイム）・自主研修（わかめの会）を年間通じて定期的実施し、実践力を高める機会とした。</p> <p>○ICT機器を活用した情報共有と業務効率化を図ったが、教職員の働き方改革に関する肯定的回答が R2 40%→R3 34%と特に低く、タイムマネジメントを意識した業務の点検見直しが必要である。</p> <p>自己評価 B●（概ね達成できた）</p>
<p>豊かな学びのある学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学力向上のための基盤づくり ○ 通常学級における様々な支援の実施 ○ iPadの活用を中心としたICT教育の推進と発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ MIMとコグトレを導入し、読解力育成のための活用方法を研究する。 ・ 学びあい学習やグループ別課題学習を実施することにより、インクルーシブな環境を作り児童が主体的に学ぶ力を育成する。（学びあいプロジェクト） ・ 個に応じた課題設定とWebを活用した授業等により、長欠児童の支援を行う。 ・ iPadの活用を中心にICT教育を推進し広く府内に発信する。 ・ iPadを活用して児童アンケートを細かく行い、授業への児童参画をすすめながら授業改善を図る。 ・ 暴力に気づき否定し、依存する仲間を見捨てない集団（暴力と戦う児童集団）を育成するために児童会活動や人権教育及びSST等、6年間を見通したカリマネに取り組み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己診断児童アンケートと摂津市児童意識調査の肯定的回答が向上すること ・ 自己診断児童アンケート「授業に関する項目」の肯定的回答が88%を上回ること。 	<p>○自己診断児童アンケートの授業に関する項目の肯定的回答の割合に関しては、「当てはまる」「大体あてはまる」を合わせた肯定的回答が88%を上回るものもあれば、届かないものもあった。</p> <p>①「授業で自分の考えをまとめたり、発表していますか」 R2 62.5%→R3 57% ▲</p> <p>②「先生は教え方を工夫していると思いますか」 R2 91.5%→R3 92% ◎</p> <p>○12月の児童意識調査の「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合わせた肯定的回答の割合に関しては、昨年度の同時期の結果と比べて増えている。</p> <p>「授業に主体的に取り組んでいる」 R2 82.1% →R3 84.7% ◎</p> <p>「授業がよくわかる」 R2 83.2%→R3 85% ◎</p> <p>自己評価 B●（概ね達成できた）</p>

<p>つながりをつくる学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第四中学校区の連携をさらに深め発展させる。 ○ 保護者や地域の願いを汲み取った開かれた学校づくりを推進する。 ○ 幼稚園保育所と小学校間にある段差の適正化に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> - 保幼小連携システムを改善 ・ スクリーニングシートを中学校区3校で共有する。 - キャリアパスポートの効果的運用 - スタートカリキュラムの実施を開始し、幼稚園と連携を行う。 ・ 2022年の大人教三島大会を見据え、市人研事務局校として市内の人権実践をサポートする。 ・ 2020年度改定PTA規約を更に練り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 摂津市人研総括 ・ 自己診断教職員アンケート シートの活用や推進普及について肯定的意見が60%を上回ること。 ・ スタートカリキュラムを実施し年度内に市内に発信すること。 ・ PTA規約改正がすすむこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権公開授業を味舌小、別府小、第一中学校にて設定。市内に広く呼びかけ、人権教育の推進を实践した。◎ ○中学校校区にてスクリーニングシートの共有と活用に取り組んだ。シート活用についてのアンケートが取れていない。△ ○別府小独自のスタートカリキュラムを実施。次年度も引き続き実施する。市内への発信はまだできていない。● ○PTA規約の改正が進んだものの、保護者・地域との連携・取り組みの発信が十分にできなかった。△ <p>自己評価 C (達成できなかった)</p>
-------------------	--	---	--	--